

## 若者の目の輝き、日本は如何

(財) 交流協会専務理事 井上 孝

台湾在勤時における感激体験は数多くありますが、特に強い感動を覚えたものの一つが、台湾の若者たちの目の輝きでした。

印象に残ったものはいくつもありますが、その中でも最も強く記憶に残っているのが、士林高商で講演を行った時のものです。

私は1998年11月に台北市の北部郊外にある士林高等商業学校に招聘され、国際貿易科三年の全生徒約220名を前に「日台経済貿易の回顧と展望」と題し、2時間強にわたり講演を行いました。

仕事柄キャリアを通じて講師経験は多数あり、自分の講演が聴衆に浸透していない時、関心をひきつけていない時の会場の引いた感じ、なんとはなしのざわついた雰囲気は十分に承知しています。しかし、士林高商での講演の際は、全くそのような感じはなく、高校生に対してはやや硬めかなと危惧していた演題であったにもかかわらず、また、日本語での講演を同校の日本語堪能な台湾人教師に逐次通訳をしていただく形での講演であったにもかかわらず、最後まで会場の関心が途切れることはなく、また、講演後の生徒たちからの質疑も活発に行われました。あの時の会場には、交流協会台北事務所の経済責任者から何事かを学びとってやろうとの強い意志が満ち溢れていたように思います。

最後に、通訳をやっていただいた教師から、長時間にわたってこれほど熱意あふれる講演と質疑が行われたことは、主催者にとっても喜びであったとのクロージングが行われました。

私はこの時の体験を400個のきらきら輝く目に囲まれた昂揚した2時間として、強烈に記憶しています。

13年も昔の話です。

しかし、交流協会は台湾のジェットロに当たるタイトラの貿易人材研修プログラムに協力し、同プログラムの日本語科(英語は必須、加えて日本語を専攻)の研修生(毎年50人弱)の日本での研修先をあっせんする事業を長年続けてきておりますが、日本での引き受け先企業からも本プログラムは好評をいただいています。その理由をお聞きしますと、優秀な台湾人青年男女とコネクションができるということにはとどまらず、優秀でやる気のある台湾人青年が研修生として入ってくると日本人若手社員が刺激を受けて活性化するからというご意見をおっしゃる日本企業の方が多数いらっしゃいます。

貪欲に学ぼうとする台湾人青年の意欲は不変のようです。彼らの目の輝きは、13年前の士林高商の生徒さん達の目の輝きと一緒です。

日本の若い方の外への関心の衰えが叫ばれて久しくなります。しかし、海外留学希望者の減少にも歯止めがかかり始めたとの報道も出始めています。また、他方では、災害地のボランティア活動などに積極的に参加する日本の若者たちも多いようです。

今の日本の青年たちの、新しいこと、外のことを知ろうとする、学ぼうとする目の輝きはどうなのでしょう。

交流協会は、日台の青年交流促進に積極的に取り組んでいます。青年たちにお互いのことをもっと知ってもらうのは当然ですが、それに加えて、お互いに刺激し合うという効果も生まれているようです。また、この点は、日本にこそ必要なことなのかもしれません。いかがでしょうか。

なお、申しあげるまでもありませんが、以上はすべて筆者の私見です。